

鳴教かわら版 Vol. 6

学部教員就職率

7年連続 **全国第1位**

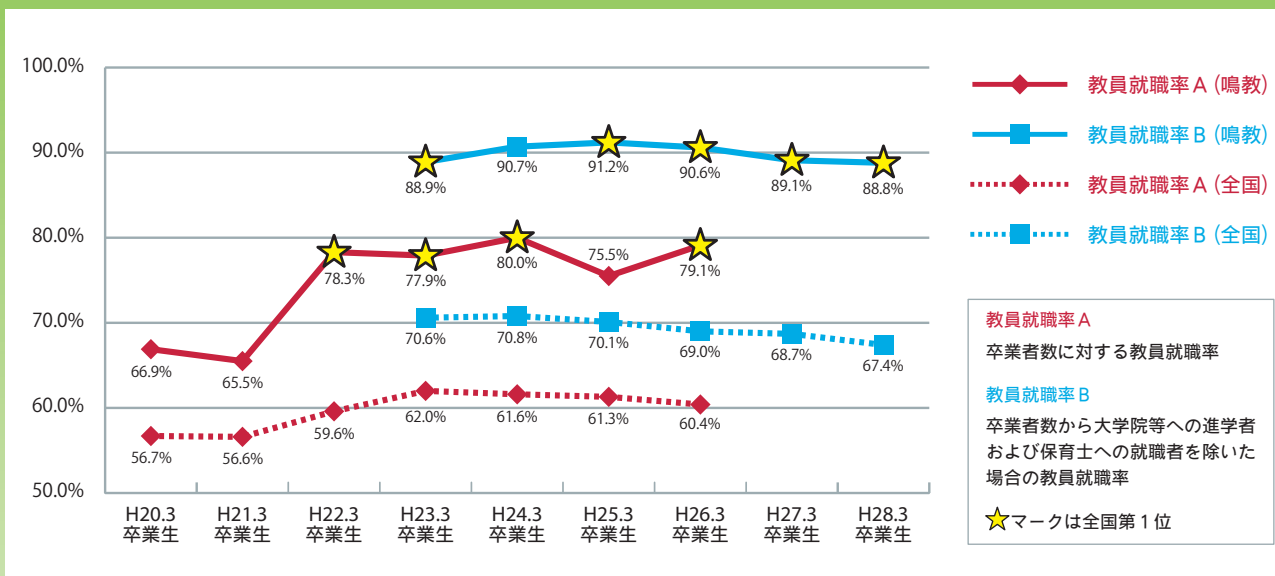
文部科学省が平成29年1月に公表した国立の教員養成学部・大学（教員養成課程）の平成28年3月卒業者の就職状況において、本学は教員就職率7年連続全国第1位の栄誉に輝きました。

また、教職大学院教員就職率も、3年連続全国第1位（100%）を達成。

さらに、本学独自の取組である学校教員養成プログラム受講者（修士課程）も教員就職率83.8%と高水準を維持し、平成20年度の当該プログラム受講者第1期生から9期連続80%以上を達成しています。

実は、本学の平成16年3月卒業者の教員就職率は、全国48の国立教員養成大学・学部の中で44位でした。しかし、大学教育を見直し、全学を挙げた教員就職支援の取組によって教員就職率が向上し、ついに平成22年3月卒業者の教員就職率が全国第1位となり、現在に続いています。

鳴門教育大学学校教育学部卒業者の教員就職率の推移（過去9年間）



7年連続は、平成22、23、24年の3年間の教員就職率（全学生対象）と平成25、26、27、28年の教員就職率（大学進学者と保育士就職者を除いたもの）を通算したものの

BPプロジェクト(いじめ防止支援プロジェクト)シンポジウム(東京)を開催

2月12日(日)、平成27年4月の発足から2年目となるBPプロジェクト(宮城教育大学、上越教育大学、鳴門教育大学及び福岡教育大学の4大学による協働参加型プロジェクト)のシンポジウムが東京都で開催され、全国からいじめ問題関係者、教員、学生など約150人が集まりました。

◆社会全体に理解が深まっていくような取組に

午前の部では、各大学の学長による、いじめ防止に対する取組報告を交えた挨拶のほか、各連携大学の事業紹介が行われました。

午後の部では、本プロジェクトの協力団体である国立教育政策研究所の杉野剛所長から、同研究所が取り組んでいるいじめに関する調査研究を御紹介いただくとともに、本プロジェクトに対し「いじめ問題について、この4大学が中核となるネットワークを全国に広げ、日本の社会全体に理解が深まっていくような取組を進めていただくことを心から期待します」と心強い応援をいただきました。

続いて、鳴門教育大学の森田洋司特任教授による基調講演、公益社団法人日本PTA全国協議会の東川勝哉副会長及び東京都教育庁指導部の小寺康裕主任指導主事による取組紹介が行われ、参加者は熱心に聴き入っていました。



国立教育政策研究所
杉野剛所長



鳴門教育大学
森田洋司特任教授
(いじめ防止支援機構顧問
(日本生徒指導学会会長))



(公社)日本PTA全国協議会
東川勝哉副会長



東京都教育庁指導部
小寺康裕主任指導主事

徳島大学と教職教育の連携・協力に関する協定を締結



(左から)鳴門教育大学: 佐古秀一理事, 大石雅章理事, 山下一夫学長,
徳島大学: 野地澄晴学長, 高石喜久理事

1月19日(木)、徳島大学と「教職教育の連携・協力に関する協定」を締結しました。

この協定は、両大学が教員養成分野で緊密な協力関係を築き、連携を深めることで教職課程の高度化を図り、教育研究活動の充実、学生教育の質的向上、人材の育成等をもって社会に貢献することを目的としています。

今後、各大学の強みや個性を生かした教員の養成にとどまらず、両大学の特色や強みを共有することによる教職課程の質的向上が図られ、徳島地区の教員養成高度化の拠点となるとともに、複雑化・高度化する教職に対する社会の要請に応えることが期待されています。

徳島大学、徳島県及び徳島県教育委員会との図書館活動の連携協力に関する協定を締結

3月28日(火)、本学と徳島大学、徳島県及び徳島県教育委員会は、「図書館活動の連携協力に関する協定」を締結しました。

この協定は、徳島県の学術、文化及び教育の振興に資することを目的としており、本学附属図書館、徳島大学附属図書館及び徳島県立図書館の交流を通じた人材の育成や収蔵資料の相互活用など、交流と連携協力を推進する内容となっています。

この協定に基づき、平成29年度は、開館100周年を迎える徳島県立図書館の記念事業(とくしまデジタルアーカイブ、巡回企画展など)への協力、図書館職員の交流研修などを予定しており準備を進めています。



(左から)徳島県教育委員会 美馬持仁教育長, 徳島大学
野地澄晴学長, 徳島県 飯泉嘉門知事, 山下一夫学長

本学とモザンビーク教育大学の大学間交流協定締結を 「日本国とモザンビーク共和国との間の共同声明」で、両首脳が歓迎

平成29年3月15日(水)、安倍晋三内閣総理大臣と、訪日中のフィリッペ・ジャシント・ニュシ・モザンビーク共和国大統領との首脳会談が行われました。そして、両国間の共同声明が発表され、その中に「両首脳は、モザンビーク教育大学と鳴門教育大学との間の学術協力協定の署名を歓迎した。両首脳は、また、二国間の教育及び研究分野における一層の交流活性化に期待を表明した。」と記載されました。(※)

この協定は、学術、教職員及び学生交流を一層深めることを目的として、平成29年3月9日(木)に本学とモザンビーク教育大学が締結したものです。

本学は、JICA(独立行政法人国際協力機構)受託研修やJICAプロジェクトを通して、日本型教育の海外展開を積極的に推進しており、モザンビークとの関わりは、平成19年度に教員養成校校舎建築にかかる研修を実施して以来、10年の交流・協力実績があります。これらの実績に基づき、平成28年11月10日にモザンビーク教育大学のウツイ学長、マジデ国際部長が山下一夫学長を表敬訪問した際に、大学間交流協定締結の提案があり、このたびの締結となりました。

今回のモザンビークを代表するモザンビーク教育大学との交流協定締結は、モザンビーク教育改善にかかるJICA受託研修の実施及びJICA技術協力プロジェクトへの参画を通じたモザンビークの教育改善の一環の中での協定締結となり、大学間連携という枠組みだけでなく、モザンビーク共和国と本学の教育改善に関する連携協定の締結の意味を持っています。

※(出典:外務省ホームページ (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000237248.pdf>))



山下学長を表敬訪問する
ウツイ学長(中央奥)とマジデ国際部長(右)



JICA受託研修に関する
モザンビーク共和国での現地ニーズ調査

コンケン大学(タイ王国)で海外観察・交流実習を実施

2月18日(土)から2月23日(木)にかけて、大学間交流協定締結校のコンケン大学(タイ王国)において、海外観察・交流実習を実施しました。

平成27年度に続き、今回で2回目となる本実習は、次の“3つの気づき”を目的としています。

- ①海外の教育事情や学校現場、地域文化を体験し、比較することで自己の教育観に気づく。
- ②海外の児童生徒と接することを通して、自己の子ども観に気づく。
- ③日本とは違った教育環境を体験することにより、自己の国際的資質に気づく。

実習では、コンケン大学教育学部日本語教育課程の学生や同大附属小学校の生徒との文化交流のほか、附属小学校の授業視察などが行われ、実習に参加した学生からは、「自分の目で見てきた海外の様子を子ども達に伝えたい」などの感想が寄せられ、翌年度に主免教育実習を控えた学生にとって有意義な実習となりました。

本学では、この海外観察・交流実習を含む「グローバル教員養成プログラム」を推進しており、教員を目指す学生を海外の学校に派遣するなど、国際化する教育に柔軟に対応できる教員の養成に取り組んでいます。



昼食をとりながら
コンケン大学生と懇談



日本語教育課程学生に書道を披露



←コンケン大附属小学校に於いて
(左)日本語活動の授業で本学実習生が
茶道を披露
(中)小学生と阿波踊りの練習
(右)英語科の授業視察

本部棟1階に鳴門教育大学ギャラリーを開設



3月23日(木), 鳴門教育大学ギャラリーを開設しました。このギャラリーは、多くの人たちに本学の過去・現在・未来を知ってもらうことを目的としており、「大学の歴史を感じながら談話が楽しめる空間」をコンセプトに、本学年表を始め、海外の大学間交流協定締結校やJICA研修員などからの寄贈品、本学及び地域の情報を発信する広報スペースなどで構成しています。

開設初日に開催されたオープニングセレモニーには、学生・教職員など約50人が参加し、山下学長から「開放的で明るい空間の中、歴史を感じながら談話が楽しめ、学生・教職員の成果発表の場としても活用してほしい」と期待が寄せられました。

大学にお越しの際は、是非、足をお運びください。



オープニングセレモニーでのテープカット

- (左から) 工藤 経営協議会委員
- 齋藤 経営協議会委員
- 柿内 経営協議会委員
- 山下 学長
- 坂田 経営協議会委員
- 吉村 経営協議会委員
- 三牧 鳴門教育大学同窓会会長

国際交流をはじめよう「ことば de ともだち」プログラム

4月12日(水), 平成29年4月に新たに設置された大学会館2階の多目的ルームで、本学で学ぶ日本人学生と外国人留学生同士が楽しく交流し合い、友人関係を築くと共に、国際交流をより身近に感じてほしいと「ことば de ともだち」プログラムを開催しました。初回となるこの日は、約20人の学生が参加しました。

今後も毎月2回の開催を予定しており、本プログラムによって、参加学生の異文化理解、語学力及びコミュニケーション能力の向上のみならず、本学が実施する「グローバル教員養成プログラム」への参加や、海外留学を希望する学生の増加が期待されます。



お手柄！鳴教生

本学の学部生・大学院生の活躍がメディアで紹介されました。

- 庭木の剪定中に宙吊りになった男性を救助
- 川で溺れかけていた男性を救助
- 還付金詐欺を未然に防止



山下学長はこれらの学生らと懇談し、その功をたたえました。懇談の様子は、本学ウェブページで御覧いただけます。

「学長だより」学長トピックス」

(URL) <http://www.naruto-u.ac.jp/information/01/008.html>

大学記章が完成



大学会館2階の売店で販売中。本学卒業生・修了生や、本学を御支援くださる皆様も、お買い求めいただけます。

タイタック式と、クリップ式の2種類 各200円(税込)

